［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日　平成22年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000259
法人名	加納商事株式会社
事業所名	グループホームゆうあい
所在地	富岡市中高瀬61−5 （電　話）0274-62-3252

評価機関名	特定非営利活動法人　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年5月19日

【情報提供票より】（ 平成21年 4月 1日事業所記入 ）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	21　人	常勤　9人　非常勤　12人　常勤換算　14.7人	

（2）建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	2 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	45,000　円		その他の経費（日額）	光熱水費　1日300円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有 （90，000円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は、1日1，200円			

（4）利用者の概要（ 4月 1日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1	名	要介護2	6	名
要介護3	5	名	要介護4	4	名
要介護5	1	名	要支援2	1	名
年齢　平均	86.33 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	西毛病院　公立富岡総合病院　公立七日市病院　西毛病院歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは富岡市の閑静な市街地に立地し、瓦葺の木造で、玄関先に季節の花が植えられている。ホールに入ると南面から光が差して明るく、中央にテーブルが置かれ、入居者が集い食事や談笑の場になっている。入居者は職員に見守られて、天気のよい日は近隣への散歩や花の水やり等に戸外に出たり、折り紙で箱を折ったり、歌を歌ったり、ボール蹴りをして楽しんでいる。また、歌を歌いながらの毎日の足湯、午前・午後の陰部洗浄等の清潔ケアが行われ、排泄等の汚物は新聞紙で包みビニールの袋に入れ匂いがしないよう工夫しをして、臭気のない環境作りをしている。ホーム内は掃除が行き届き、匂いもなく清潔感がある。職員は理念を基に、入居者が地域での自由に自分らしい日常生活が過ごせるよう支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 昨年の評価から運営推進会議に市担当者が出席されるようになり、市町村との連携では市の保健センターの研修会、市主催の介護フェアに参加して情報交換をしている。また、職員を育てる取り組みでは研修計画を立て、県や地域密着型サービス連絡協議会が主催する研修会（認知症、その他）に職員が出席するなどの取り組みが行われている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 運営者、管理者は、自己評価について職員からの意見を求めてケアマネージャーがまとめている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 2ヶ月毎に運営推進会議は開かれており、利用状況、行事運営、評価結果報告、情報公開内容の公開、災害避難訓練、新型インフルエンザ予防対策、地域の情報、その他を議題に挙げて話し合いをしている。出された意見を、サービスの向上に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 入居者の生活ぶりや健康状態を一筆箋便りに書いて毎月家庭に郵送し、また、家族の面会時や電話でも報告している。意見や要望を聞き出すように声をかけ、玄関には苦情箱を置き、苦情委員会も設置し、出された意見や要望などを運営に反映させている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に加入し、回覧版が回り情報を得て、地域の清掃や行事等の活動に参加している。入居者は天気のよい日には散歩に出かけて近隣の方と挨拶を交わしたり、お菓子、お花や野菜を頂いたりしている。また、中学生の体験学習や看護実習生を受け入れたり、ダンス等の地域ボランティアが訪問している。職員は近隣に住む認知症の方を自宅まで送り届けたりしている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念に見直し、友愛精神を基本姿勢に、入居者が地域の中で自分らしく自由な日常生活を送れるように、温かく優しい心からのケアを、理念に掲げている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所やホールに掲示し、会議等で唱和している。職員は、無理強いせずに、入居者に希望を聞き、出かけたいと言えば一緒に歩き、温かい心で介護している。自由に自分らしい日常生活支援への取り組みをしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板が回り地域の情報を得て、行事や清掃活動に参加している。敬老会に招待されるが、出席はしていない。入居者は散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、花や野菜を頂いたりしている。また、認知症の方を自宅まで送り届けたり、中学生の体験学習や看護実習生の受け入れをしたり、ダンス等の地域ボランティアが訪れる等地元の方との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、自己評価はミーティングや会議で意見を聞きまとめている。昨年の評価を受けて「運営推進会議を活かした取り組み」では市職員が参加されるようになり、「市町村との連携」では市のケア会議に参加して情報交換を行っている。また、「職員を育てる取り組み」では職員を段階的に研修会に出席をさせるように計画をするなど取り組んでいる。	○	評価の意義を理解して、自己評価を運営者、管理者、全職員で行うよう期待したい。
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催されている。利用状況、行事運営計画、評価結果報告、情報公開内容の公開、介護フェアの参加、災害避難訓練、新型インフルエンザ予防対策、その他を議題に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のケア会議に出席し、ケアマネジャーは情報交換をしている。地域包括支援センターへ空き状況等を報告したり、保健所が見え新型インフルエンザの対応について研修会が行われている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態は一筆箋便りに書いて、毎月の請求書と共に自宅に郵送している。家族の面会時や電話でも伝えている。また、年2回「ゆうあい便り」を発行し、入居者の生活ぶり等を掲載をして家庭へ配布している。金銭は預かっておらず、必要なものは家族に相談して立て替え、領収書を提示し精算して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情相談受付窓口について説明し、重要事項説明書に明記している。苦情箱を玄関に設置しており、苦情委員会もある。家族の面会時には意見要望等への声かけを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、A・B棟間での職員の異動を必要最小に押さえ、日常的にA・B棟間での交流をしたり、職員が働き安いよう規定人数より多く採用している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は段階に応じて研修計画を立て、県主催の研修会の参加やホーム内で新人研修や介護技術の勉強会を行っている。職員は研修に出席すると報告書を作成し、会議で報告している。また、資料は職員に回覧をしている。新人は管理者や主任が指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャー会議や地域の介護フェアに参加したり、職員は相互訪問研修に参加する等により同業者との交流をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があるとパンフレットを渡し、ホームの見学に見えて頂いている。入居者とお茶を飲んだり、ボール蹴りなど一緒に行って頂くことで、雰囲気を知ってもらっている。また自宅を訪問し本人と顔馴染みになり、家族とも相談をしながら入居を進めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争体験や昔の歌・唱歌を、職員は入居者から教えて頂いている。入居者は物を大切にし、「ありがとう」と感謝の言葉を言う。そうした人としての生き方を学びつつ、冗談を交えながらのコミュニケーションを楽しんでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の介護支援の中で、一人ひとりに寄り添い受容し、会話をするなかで把握に努めている。意思疎通の困難な方には、介護経験によりしぐさから思いを汲み取り、毎日のミーティングなどで検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーや職員は、本人や家族の希望を聞き、3ヶ月毎にケア会議で検討して介護計画を作成している。家族がカンファレンスに参加することもある。介護計画は家族の了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は3ヶ月～6ヶ月としているが、毎月モニタリングを行い、家族の要望や体調の変化に応じて随時見直し現状に即した介護計画を作成している。介護計画は、ミニ会議、申し送りノート等で報告し実践している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合により職員が受診に同行し、診察時の状態や薬等についての説明を聞き、家族に伝えている。入院中の洗濯や買い物等を支援したり、希望される入居者には一緒に墓参り等へ出かけるなど柔軟な支援をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切にして、入居前からのかかりつけ医、ホームの協力医をかかりつけ医とするか確認している。協力医は、毎月往診に見えている。整形外科、眼科、歯科等の協力医と関係を築き、適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアは行わない方針であるが、身体状態の変化には医師や家族と繰り返し話し合い方針を決めている。職員は本人や家族の気持ちを受け止め、可能な限りの支援をしている。日中の急変時はかかりつけ医、夜間は総合病院に連絡しての対応を行っている。	○	安心して生活できるように重度化から終末期までのホームの指針を作成して、意志確認書や具体的なケア等について全職員で検討して頂きたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室時の声かけや排泄誘導時の対応等、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応に配慮している。個人の記録類は、事務室に保管をしている。職員は入職時に秘密保持の遵守を誓約している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午後のレクリエーションのボール蹴り等がしたくない方には無理強いはせず、楽しんでいる。テレビ好きの方は居室のテレビを遅くまで見ていたり、箱作りの好きな方には気ままに作ってもらったりなど、一人ひとりのペースを大切に希望に添って支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりや野菜の下拵えを職員と入居者は一緒に行い、一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回の入浴日となっているが、汚れた場合は随時シャワー浴等をしている。入浴を拒否する方にはタイミングや言葉かけを工夫したり、菖蒲湯や柚子湯等で楽しめるよう入浴支援をしている。陰部の洗浄、清拭や歌を歌いながらの足湯は毎日行い、清潔を保てるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かして、野菜の下拵え、雑巾縫い、洗濯物たたみをしている。折り紙で上手に箱を作ったり、歌が好きで唱歌を一緒に歌ったり、ちぎり絵の創作やボールけり等を行い楽しんでいる。また、外食、季節の花見、クリスマス会、誕生会等を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は車椅子の方も近隣を散歩したり、庭先で外気浴やお茶を飲んだり、花の水やりや草取り等をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者、全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間を除いて玄関の鍵はかけていない。外へ出かけたい様子の入居者に声をかけたり、一緒に外を歩く等して、職員は入居者の安全を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災避難訓練の計画書を消防署に提出し、ホームの防火管理者の指導により、昼間・夜間を想定しての避難訓練を行ない、避難経路・方法を確認している。災害時のマニュアルや緊急連絡網を作成している。隣宅に災害時の協力依頼をしている。	○	災害時に避難できるよう訓練に地域の方も参加をされるよう働きかけをして、地域の方の意見を聞き避難場所についても検討をして頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者の希望を聞き献立を作成し、調理担当職員が食事作りをしている。体調や好みに合わせて普通食、粥や刻み食、ミキサー食等を提供している。食べる量はチェックし記録しているが、水分量は1000から1200ml摂取されるよう支援しているが記録はしていない。	○	栄養量の把握のためカロリー計算を行ってみる事と一日の水分量を個人記録に記載し、その情報を共有しての支援を期待したい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は季節の花が植えられ、ホールは南に面して明るくテーブルが中央に置かれ、角にはソファーに掛けてテレビが見られる空間になっている。壁には絵画や季節毎の貼り絵、入居者の生活ぶりや行事等の写真が掲示されている。トイレは車椅子で入れる十分な広さと、日に3回以上の清掃により臭気もなく清潔感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた箪笥、仏壇、車椅子、テレビ、時計等が持ち込まれ、家族の写真、入居者の作品、好みの歌手のポスターが壁に飾られて、本人が居心地よく過せるよう配慮している。		